第２学年　道徳学習指導案

日　時　平成20年　11月18日（火）３校時
学　級　２年　男子４名　女子７名　計11名
指導者　教　諭　加　藤　裕　子

１　主題名　　生命の尊重　３－（２）

２　資料名　　「氷河上の決断」　（明治図書）

３　主題設定の理由

（１）　価値について

内容項目３－（２）は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことを目指している。生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現われといえる。自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることが大切である。生きていることのありがたさに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命も同様に大切にするはずだという期待があるからである。

現代社会はまさしく「価値の多様化」の時代である。多くの選択肢があり、しかもどれを選ぶべきかを考える基準が人によって様々であるという問題が増えてきた。このような社会情勢の中で、「生命の尊重」という、これまで迷いや疑問を差し挟む余地がないと考えられてきた命題においてさえ、例えば「自分は臓器提供を承諾するのかしないのか」あるいは、「延命治療を拒否するのか受けるのか」といった正反対の方向性が導き出されるようになってきたのである。

本時では、一方的に「生命は大切だ」といった価値だけを注入するのではなく、互いの考えを交流しあい、生命に関する様々な考え方に触れ、「思考力」を駆使して検討し、「生命を大切にするということはどういうことなのか」、自分なりの結論を練り上げていくという過程を大切にさせたい。今回の授業では、モラルジレンマによって様々な価値について考察させ、生命の大切さを認識させたいと考えている。

（２）　生徒について

本学級の雰囲気は、明るく、男女間の仲も良い。男女共に、何事も素直に前向きに考えて行動することができる。しかし、男子には、幼い面があり、深く物事を考えられなかったり、考えは立派だが考えに見合うだけの行動ができなかったりすることがある。女子は、明るく前向きな態度であり、周りのことを考えることや気遣って思いやりのある行動ができる。本学級の生徒は、道徳の授業に意欲的で、道徳の時間は心を磨く時間、他者の考えや意見を聞いて心を深く耕す時間、自分の考えを他者に伝えるという表現する時間だと捉えている。道徳の時間における表現できる力は、昨年度に比べてかなり向上していると感じる。ほとんどの生徒が１つの課題に対して、真剣に考え様々な意見を出し合うことができる。さらに、道徳的な心情や判断力が養われ、道徳的価値が深いしっかりとした考えを述べることができる生徒も数人いる。しかし、他者の意見について深く考え、自分たちの考えを交流しながら学級全体で練り上げていき、自分なりの結論をだすという力は、まだ十分とは言えない。

本時の授業では、道徳的な価値を深めるだけでなく、自分の考えや意見を発表し、また他者の意見を聞いて深く考えて、自分の意見を述べるという表現し合う力も育てたいと考えている。

（3）　指導について

この資料は、事実にもとづくストーリーである。内容を簡単に説明すると、女性隊員が転落した、救出が困難で、救出するとなると自分たちの生命にもかかわる危険な状態にあるクレバスを前に、隊長をはじめとして他の隊員たちが救助活動を「継続すべきか」「継続すべきではないか」を判断するというものである。道徳教材には、架空の物語もたくさんあるが、授業のはじめに「これは実際に起こった出来事である」と伝えることによって、生徒たちにより大きな重みを感じさせ、生命の大切さについて深く考えさせたい。しかし、本時の指導では、「生命は大切だ」という価値だけに気づかせるだけではなく、互いの考えを交流し合い、生命に関する様々な考え方に触れ、思考力を駆使して検討し、「生命を大切にするということはどういうことなのか」、自分なりの結論を練り上げていくという過程を大切にさせたい。

本主題は、一主題二時間構成で行う。第一次では、「クレバスに転落している白水隊員」という差し迫った状況を、現地の自然条件や登山隊のもつ危険性とともに認識させる。生徒は、このようなことについての知識が不足しているので、転落の状況や救助の状況などの把握をしっかりと深くさせることが重要である。その上で救助を「継続すべきか、すべきではないか」と悩み苦しんでいる隊長や隊員たちの葛藤状況をつかませる。

第二次では、救助を「継続すべきか」「継続すべきではないか」という論点について、生徒それぞれの理由づけをもとにしたディスカッションを展開する。二時間扱いにすることで、状況の把握をしっかりさせ、より深く考えられるようにするとともに、様々な考えを交流する時間を確保し、生命の尊重の深い価値について理解させたい。

4　研究とのかかわり　「道徳の時間における表現できる力」

道徳の時間は、豊かな心を育む時間、心を磨く時間、また、自分の考えや意見、気持ちを表現する時間として捉えている。道徳の授業を行うにあたって、生徒にも説明し、授業の開始時に毎回のように確認し、学習を進めている。道徳の時間における「言葉で表現できる力」を育成するために「自分の考えを持つこと」「自分の考えを自分の言葉で話すこと」「他の人に質問すること」の三つに重点を置いて指導している。道徳の時間において、ねらいとする道徳的価値に迫るためには、個々の生徒が持つ多様な価値観を交流することが大切である。交流する中で、自分の考えが深く広くなっていくものと考えている。そのためにも、表現できる力を身につけることは重要であると考えている。

（1）　「自分の考えを持つこと」ができるように

- 発問に対する自分の考えをノートやプリントに書かせる。
- 他の人の意見に左右されないように、自分の考えをまとめる時間をしっかり取らせる。

（2）　「自分の考えを自分の言葉で話すこと」ができるように

- 自分の考えを話しやすくするために、書いたことをもとに話す訓練をする。
- できる限り指名を行わず、自分の意思で挙手できるように、自分の意見を話すことの大切さを繰り返し指導する。多少時間がかかっても根気強く待つ。
- 自分の考えを話すことができた生徒への評価をしっかりと行うこと、また、うまく話せないときでも自分の言葉で話すことの素晴らしさを教える。それと同時に話し方（スキル）を教える。

（3）　「他の人に質問すること」ができるように

- 他の人の考えを聞くことにより、自分の考えや感じ方が深まることを感じ取ることができるような授業を組み立てる。
- 授業中に「誰かの意見で、自分の考えが変わったことや深まったこと」を発表する場を設定する。また、授業後に、話し合いによって「初めて知ったこと、考えさせられたこと、感じたこと」などを発表する場を設定する。
- 質問の仕方（スキル）をこまめに指導する。

5　本時の指導

（1）　ねらい

隊長（隊員たち）が、どのような決断を下すべきかについてのディスカッションを通して、自分とは異なる様々な考え方があることに気づき、いろいろな視点で考察し、「生命の尊重」についての道徳的な考えを深める。

（2）　表現する場　（★）

・お互いの顔を見ながら自分の判断と理由づけを発表する（展開）

・様々な意見に対して、自分はどのように考えるか、あるいは自分の考え方に変化が生じたかということも踏まえて、質問、賛成意見、反対意見を発表させる。（展開）

・他者の考えや意見を聞いて、自分の考えが深まったり変わったりしたことを発表する。（終末）

（3）展　開

段階	学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	留意点 表現の場（★）
導入 7分	1　資料を読み、第一次の学習を思い起こす。 ・現場の具体的な状況を再度しっかり把握し、山中隊長は、「継続すべきか」「継続をすべきではないか」の決断で悩んでいることを思い出す。 2　学習課題を確認する。	・クレバスに転落して、声が聞こえるのに救出できない状況。白水隊員の生命の危機である。助けたいがどうしようもできない。 ・夕闇が迫ってきており、このまま救助活動を継続すれば他の隊員の生命に危険を及ぼすことになる。どうしたらよいのだろうか。	・葛藤状況を再確認させる。
	山中隊長は、「継続すべきか・すべきではないか」どのような判断を下すべきだろうか。		
展開 33分	3　第一次で書いた自分の判断と理由を確認し、学級の他の人の判断と理由づけを知る。 ○自分の判断とその理由づけを発表する。（自分の判断の表示を机上に置く。） ・学級の他の人の考えを聞き、両方の判断と理由に触れた上で、自分はどのように考えるのかという考察をする。 4　一人一人の考えを発表し合い、自分の考えを深める。 ○他の人の判断と理由づけに対する質問、賛成意見、反対意見を発表し合う。	「継続すべき」という意見 ・白水隊員は、大事な仲間だから助けたい。 ・どんなことがあっても、見殺しにするようなことはできない。 ・このまま助けなかったら一生後悔する。 「継続すべきではない」という意見 ・このまま継続すれば、他の隊員たちも死んでしまうかもしれない。 ・白水隊員が「もういいよ」と言っているのだから、その気持ちに応えるべきだ。 「継続すべき」 ・自分も死ぬかもしれないけれど、まだ声も聞こえるのに、自分の生命を守るために見捨てるという決断はできない。 ・危険を承知で来ているのだから、最後の最後まであきらめないことが大事である。	・コの字型に座席を変える。 ★お互いの顔を見ながら、自分の判断と理由づけを発表させる。 ・自分の考えと他者の考えの類似点や相違点を確認させる。 ★様々な意見に対して、自分はどのように考えるか、あるいは自分の考え方に変化が生じたかということも踏まえて質問、賛成や反対意見を発表させる。

段階	学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	留意点・表現の場
展開 33分	補助発問 ・白水隊員はどんな気持ちで「もういいよ」といったのだろう。 ・山中隊長が「継続すべきではないのではないか」と悩んでいるのはどうしてなのだろう。 5　山中隊長はどのような判断を下すべきかについて、再度判断し、理由づけをする。 ・第二次の判断と理由づけをプリントに記入する。（自分の判断の表示を改めて机上で示す。）	「継続すべきではない」 ・自分たちまで死んでしまったら、白水隊員が一番悲しむことになる。 ・後悔は残ると思うけれど、生きていれば白水隊員の想いを引き継ぐことができる。 「継続すべき」 ・どんなことがあっても見捨てられない。 「継続すべきではない」 ・みんなの意見を聞いて考えが変った。白水隊員の命も大事だけど、助かる可能性のある他の隊員の命も大事にしなければならないと考えた。	・生命を大切にするというのはどういうことなのか深く考えさせる。 ・同じ意見でも理由の変化があることを大切にさせる。
終末 10分	6　最終的な自分の判断と理由づけも含め、今日の授業を受けて、自分の考えが深まったことや変わったことなどを発表する。 7　先生の説話 ・これからの社会を生きる生徒は「自分は臓器提供を承諾するのかしないのか」あるいは、「延命治療を拒否するのか受けるのか」といった決断をしていく時代である。その時に自分で考えて判断できるようになって欲しい。	・人の生命の重さを比べることはできないけれど、決断しなければならない時があるのでその時は良く考えなければならないと思った。 ・今日の話し合いで、色々な視点から考えなければならないことが分かりました。	★他者の考えや意見を聞いて、自分の考えが深まったり変わったりしたことを発表する。

（4）評価

自分とは異なる様々な考え方があることに気づき、いろいろな視点で考察し、「生命の尊重」についての道徳的な考えを深めることができたか。